

# 個人の環境認識の変化を促す 「名づけ」の可能性に関する研究 —『なにわ町方あきんど会』の10年—

○長田 知子<sup>1</sup>・近藤 隆二郎<sup>2</sup>

<sup>1</sup>ヒューマン株式会社 (542-0081 大阪市中央区南船場 4-8-8)

<sup>2</sup>工博 滋賀県立大学助教授 環境科学部 (522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500)

本研究では 10 年にわたりまち歩きを続けている『なにわ町方あきんど会』の活動記録である引札を分類し、「名づけ」という行為が環境認識の変化を促すかを、「対象物」「名づけ方」「対象物のとらえ方」という三軸から分析した。引札の分析からは、対象物への注目点にはそれほど個人差は出ないものの、その「とらえ方」と「名づけ方」には、大きく 2 タイプ—「コレクター型」と「エディター型」—があると考えられた。環境認識の変化としては、「エディター型」は、モノと周囲とのかかわりについて深く考える可能性も秘めているが、「コレクター型」になると、自分の“まなざし”にもとづく見方が固定しがちであり、逆に認識を深める作用を鈍化させる怖れもある。この場合は、あらたな見方の刺激や、「名づけ」の深層を見るようなしなかけがさらに必要とも考えられる。

**Key Words :** give meaning(naming), town watching, environmental recognition, change of individual

## 1. 「なにわ町方あきんど会」と「名づけ」

### 1.1 研究の背景と目的

近年、「あるく」ことがさまざまな観点から注目されている。それは健康促進のためのウォーキングや、環境学習の一環としてのまち歩きなどである。日常生活で自転車や車をよく利用する場合、ある程度の距離を「あるく」ことは意欲的にしない限りあまり機会がない。それでも「あるく」ことに関心が高まる背景には、忙しい現代社会に求められている「ゆとり」という概念や、ライフスタイルの見直しなどが挙げられる。

また、行政の取り組みとしてのまち歩きには“まちに愛着を持ってほしい”という願いがこめられており、住民に地域への関心をより深く持ってもらうという意図を<sup>まちかた</sup>読み取ることができる。本研究の対象となる『なにわ町方あきんど会』(以下『あきんど会』と略記)は、大学と行政とが主催したイベント<sup>9</sup>をきっかけとして結成された大阪の NPO である。会員数は 2002 年 9 月現在で 26 人であるが、実際にまち歩きをしている主要なメンバーは 10 人程度である。いずれも大阪在住であり、30 代～80 代という幅広い年齢層である。“あきんど会”という名前は、第 3 回環境再発見ウォーキング『上町環境算盤勘定』に由来している。このイベントでは、参加者をグループに分け、それぞれのグループがまちを歩き(＝仕入れ)、環境資源(＝商品)を見つけて名前を付け、それらの商品を売り

込み、せりをして勝敗を決めるという「あきない」に見立てた。このあきんど会の活動の中心が「引札」づくりであり、「仕入れ」から引札による商品の報告までを指す。

先行研究として、吉岡らによる「名づけ」の分析があるが、多主体によるイベント的な仕掛けにおける分析であり、長期間の個人に着目した分析はされていない<sup>2)</sup>。本研究では、『あきんど会』が活動記録のメインとして報告している『<sup>ひきふだ</sup>引札』<sup>3)</sup>の 10 年分を分析対象とし、「対象物」「名づけ方」「対象物のとらえ方」という三軸から分析し、会員の全体の傾向や変化を読み取る。さらに、引札の報告数が多い会員に関しては個人別の分析を行い、引札上にあらわれた個人の特徴を捉える。

以上の分析より、「名づけ」行動が個人の環境認識に変化を与える可能性について、10 年間の経過をふまえて考察することを目的とする。

### 1.2 路上観察・まち歩きについて

路上観察とは、まちを歩く際にものごとを「観察」する視点を持って歩くことである<sup>4)</sup>。この行為はそもそも、現在の世相や風俗の姿をとらえることを目的とした「考現学」を発端としている。今和次郎が提唱した「考現学」は、統計という記録方法により分析を試みる。調査により得られた統計から、場所と時間という二軸による比較考察から世相を読み取るという考え方である<sup>5)</sup>。

「考現学」の基本姿勢である「対象をよく見ようとする」

表-1 『なにわ町方あきんど会』の活動(仕入れ)一覧

| 日時       | 場所               | イベント名         | 参加人数 | 日時       | 場所          | イベント名          | 参加人数 |
|----------|------------------|---------------|------|----------|-------------|----------------|------|
| 19921018 | 天王寺区民センターと周辺     | 上町環境算盤勘定      |      | 19990124 | 池田市         | 池田の猪買い         | 9    |
| 19930307 | 阿倍野区丸山地区         | 環境あきんど手習い塾    | 3    | 19990214 | 池田市         | 池田の猪買い         | 9    |
| 19930826 | 天王寺区             | 再会記念ウォーキング    | 16   | 19990322 | 池田市         | 池田の猪買い         | 12   |
| 19940118 | 大阪市内             | なにわ八十八歳めぐり    | 12   | 19990418 | 東横堀川        | なにわ八十八歳めぐり     | 9    |
| 19940430 | 動物園前界隈(天王寺)      | 通天閣写真比べ       | 12   | 19990516 | 天保山         | 天保山登山と渡し船      | 8    |
| 19941129 | 大阪市北区地下街界隈       | なにわ地下街待合探し    | 9    | 19990620 | 神戸          | 神戸宮巡り(一宮? 四ノ宮) | 9    |
| 19941219 | 空堀横町(中央区谷町)      | あきんど横町かるた公開下見 | 5    | 19990923 | 箕面市         | 総会             | 13   |
| 19950116 | 梅松院(まどめ場所)       | あきんど横町かるた睦月   | 13   | 19991121 | 神戸          | 神戸宮巡りその二       | 8    |
| 19950312 | 梅松院(まどめ場所)       | あきんど横町弥生編     | 7    | 19991212 | 難波          | 酒蔵で忘年会         | 13   |
| 19960421 | 天満堀川             | なにわ八十八歳めぐり    | 10   | 20000123 | 大阪モノレール     | モノレールから大阪を見る   | 10   |
| 19960721 | 蜷川跡屋景色           | 第2回はしめぐり      | 8    | 20000305 | 堺市 蘇鉄山      | 一等三角点を踏みしめ     | 8    |
| 19961013 | 西横堀川             | 第3回はしめぐり      | 9    | 20000409 | 池田          | 仕入れ            | 9    |
| 19970223 | 西横堀川残り           | 第4回はしめぐり      | 11   | 20000528 | 服部緑地        | 民家集落でほのぼの      | 8    |
| 19970426 | 駒川今川             | 駒川今川不惑橋       | 8    | 20000610 | 舞洲          | 作陽の旅           | 12   |
| 19970614 | 和歌山山和郡山          | 大和郡山ウォーキング    | 5    | 20000617 | 室津          | 旅モニター          | 7    |
| 19970706 | 大阪市ディアモールなど      | 第1回地下街探索      | 8    | 20000618 | 室津          | 旅モニター          | 7    |
| 19970803 | 大阪市クリスタなど        | 第2回地下街探索      | 8    | 20000708 | 阪南          | 旅モニター          | 7    |
| 19971004 | 宇治市              | 歴史街道、宇治十品を探せ! | 4    | 20000709 | 阪南          | 旅モニター          | 7    |
| 19971130 | 三田(兵庫)           | ボランティア養成講座下   | 6    | 20000909 | 木津          | 歴史街道HWA!会議     | 9    |
| 19980405 | 住吉区万代池           | お花見           | 9    | 20001203 | 吹田          | 忘年会/旧片屋敷拝見     | 11   |
| 19980509 | 住吉               | 環境あきんど手習い講座   | 9    | 20010311 | 木津          | 山背古道探検隊        | 8    |
| 19980523 | 住吉               | 環境あきんど手習い講座   | 9    | 20010401 | 舞洲          | 大阪湾島巡りその1-1    | 6    |
| 19980607 | 住吉               | 環境あきんど手習い講座   | 11   | 20010402 | 舞洲          | 大阪湾島巡りその1-2    | 9    |
| 19980621 | 住吉               | 環境あきんど手習い講座   | 11   | 20010617 | 六甲アイランド     | 大阪湾島巡りその2      | 6    |
| 19980809 | 生き生き地球館(鶴見区緑地公園) | ECO緑日         | 8    | 20010708 | 関西空港        | 大阪湾島巡りその3      | 9    |
| 19981031 | 宇治               | 仕入れ           | 8    | 20011014 | 淡路島         | 大阪湾島巡りその4      | 11   |
| 19981115 | 京街道(京橋発)         | 仕入れ           | 7    | 20011216 | USJ(大阪市)    | 忘年仕入れ          | 10   |
| 19981223 | 港区、西区、大正区        | 仕入れ           | 9    | 20020114 | 安倍清明神社      | 初詣             | 10   |
|          |                  |               |      | 20020321 | 天六? 中崎町? 梅田 | 仕入れ            | 8    |
|          |                  |               |      | 20020421 | 天王寺         | 四天王参り          | 8    |
|          |                  |               |      | 20020519 | 南堀江? 南船場へ   | 仕入れ            | 7    |
|          |                  |               |      | 20020707 | 梅田地下街       | 仕入れ            | 10   |
|          |                  |               |      | 20021110 | 千林商店街       | 仕入れ            | 不明   |

観察の目を持つことは、まち歩きの基本姿勢でもある。自然観察(植物や野鳥など)を目的とした市民団体は近年増えつつあるが、『あきんど会』は観察対象を拡張し、今から考現学者の観察の対象に近い、まち空間の環境資源に着目している(表-1 参照)。

目に見えるものの断片を採集し記録する「考現学」を土台とした路上観察は、自分の価値観で「見て・感じる」ことを促進する。まちは常に流動的であり、新しい感動を与えてくれる。そのことがまち歩き活動の魅力であり、長続きする理由であると考えられる。

### 1.3 「名づけ」という仕掛け

『なにわ町方あきんど会』の活動の大きな特徴として「名づけ」が挙げられる。名前を付けるという「命名行為」の特徴は、「①新しい事物の発生に関わる」「②対象事象を他の事物と区別し、分類の基準を作る」「③他人に伝える働きを持つ」と整理されている<sup>6)</sup>。日常において、名づけられた名前は使われることで定着し、また自分との関わりをとりえる一つの道しるべとなる。「名づけるとは、物事を創造または生成させる行為であり、そのようにして誕生した物事の認識そのものであった」<sup>7)</sup>とあるように、名づけを通じて私たちは世界を認識し、理解しているのである。さらに、「ある空間や場所への命名が、ただの標

識ではなく、人々のそれに対する感覚や願望を要約し、生活経験の痕跡をとどめるものである」<sup>8)</sup>とすれば、「名前」は単純な呼称以上の意味を持つと言える。

「名づけ」はまた、学問の中でも重要な意味付けをされている。

民俗学の立場からは「名づけることは“所有する”こと」<sup>9)</sup>ととらえられており、環境社会学の立場からは「名づけは、自然環境とのかかわりの象徴である」<sup>10)</sup>ととらえられている。

また、名称の持つはたらきとして、吉岡<sup>11)</sup>は図-1を示した。例えば人名に関して、「名前やニックネームの分析を通じて文化や社会構造そしてそれらの変化がよりよく理解できる」<sup>12)</sup>のは、①符号機能や②意味機能から言えることである。あだ名(呼び名)は基本的に相手に対する親しみを示すものであり、③愛着形成効果があると言える。人名に限らず場所の名称やキャラクターの名前などについても同様のはたらきをみることができる。

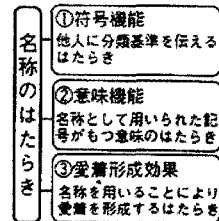


図-1 名称の3つのはたらき

出典: 吉岡哲(1994):環境計画における《名づけ》概念の考察と手法化に関する研究、大阪大学大学院環境工学専攻修士論文、p5

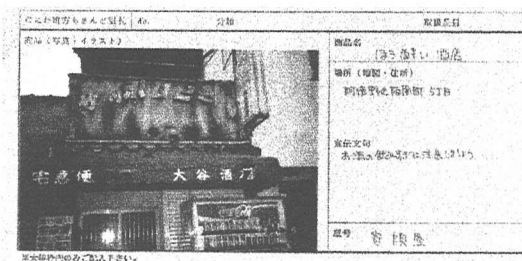


図-2 引札フォーマット(1992.10 ~ 1993.2)

表-3 対象物の分類項目

|            |                                                       |
|------------|-------------------------------------------------------|
| ① 建物       | ビルや住宅、大きい建築物(門、観覧車など)を指す。また、建物の一部である窓や柱などもこの要素に含まれる。  |
| ② 公共看板     | 交番など公共の建物の看板や、道路の通行禁止の看板等国や自治体が出している公共の看板。            |
| ③ 店舗看板     | 店名や、店であることを示す看板。                                      |
| ④ 告知看板/サイン | 広く人に伝えることを目的とした看板。店舗の手書きの看板や、注意書きなどもこの要素に含まれる。        |
| ⑤ 道/坂/階段   | 道路や舗装、路地や階段など、線状に続くもの。                                |
| ⑥ 公共物      | 個人のものではないもの。街灯や町中のゴミ箱など。また、ゴミもこの要素に含まれる。              |
| ⑦ 記念碑系     | 記念碑やオブジェ、モニュメントなど。                                    |
| ⑧ 宗教的なもの   | 鳥居や祠、狛犬、地蔵、石仏など。                                      |
| ⑨ 景色/雰囲気   | 場面や情景をとらえたもの。「対象物」というより、景色という扱いができるもの。                |
| ⑩ 柄/模様/色   | 壁の柄や、ものの色、模様など。                                       |
| ⑪ 装飾物      | 店頭ディスプレイや、用途として「飾る」ことを目的としたもの。                        |
| ⑫ 人間       | 1人あるいは複数の人間を対象としたもの。                                  |
| ⑬ 動物       | 鳩や犬など、動物を対象としたもの。                                     |
| ⑭ 植物       | 木や草、花など植物を対象としたもの。                                    |
| ⑮ 人工物      | 人の手が加わっているもの、また天然のものではないもの。観葉植物などもこの要素に含まれる。          |
| ⑯ 有機物      | 無機物(石など)ではないもの。                                       |
| ⑰ 非利用/無用物  | ゴミや、昔は利用されていたが今は利用されていないもの。また、路上の無用物(トマソン)もこの要素に含まれる。 |
| ⑱ 生活用品     | 洗濯物や傘など、生活用品を対象にしたもの。                                 |
| ⑳ その他      | 以上の分類要素に含まれないもの。虹や雪など、自然現象もこの要素に含まれる。                 |

以上の背景から、ひとが対象に対して感じることやイメージすることが「名付け」という仕掛けによって表現され、思いや感覚をその名前の中に織りこむことで対象により近づくことが可能となる。

「名づけ」という手法に関して、吉岡<sup>19)</sup>は「環境計画において地域のアイデンティティの再構成という役割を担う」と述べている。人が対象に対して感じることやイメージすることが「名づけ」という仕掛けによって表現され、思いや感覚をその名前の中に織りこむことで対象により近づくことが可能となるのである。

『あきんど会』において実践されている「名づけ」は、自ら名称を発想することで対象に愛着がわき、対象へのまなざしを自己に取り込む働きがあると考えられる。「名づける」=「意味付けを行う」ことで、名前そのものが頭に残らなくても、その対象への「かかわりかた」は記憶に残りやすく、その対象物がある地域には親しみを感ぜられると思われる。また、機関誌『まちなど』で、他の会員の引札報

表-2 引札が持つ情報

- 商品(写真・イラスト)
- 商品名(名づけ)
- 場所(所在地・住所)
- 宣伝文句
- 屋号(氏名)

告を見ることで対象物へのまなざしの違いを共有することが出来るため、親しみを抱く地域は個人で路上観察を行うよりも広がる。

## 1.4 本研究の対象

本研究で分析対象とする引札は、あきんど会が結成された1992年から2002年5月までに会員によって報告された1,000枚の引札である。引札は、当初は決められたフォーマットで「商品」「商品名」「場所」「宣伝文句」「屋号」の記入欄があり、写真を貼るか、もしくはイラストを直接描きこむなどして、はがきのように送れる形式を取っていた(表-2, 図-2)。現在では、個人が写真にそれぞれの情報を書き込んだメモを添付して機関誌編集部へ送付する形をとっている。

## 2. 分析方法

### 2.1 「引札」分析

引札の分析として、「全体」と「個人」ごとの分析を行う。対象としている引札は個人数名のデータであり、むしろ個人の占める割合が極端に高い。しかしながら表-1に示すように、『あきんど会』は集団でも行動しており、集団

行為の影響についてもおさえておくことが必要と考えた。

また、変遷の傾向を考察するため、本研究では、対象となる1,000枚の引札を古い順に三期(約3年ごと/ほぼ同数)に分け、対象物の変化を分析した。各年度ごとの分析も試みたが、時期年度の差異よりは、むしろ引札の提出枚数ごとに成長プロセスが関係すると考えたためである。個人分析でも同様の3区分を用いている。個人分析の対象者は、ほぼ同様の9年間程度の活動履歴があり、同様の活動刺激を受ける状況であった。引札報告頻度には個人差があるが、ほぼ3区分程度で区切りがあるものと仮定している。

引札に含まれる情報のうち、対象物(商品)、名づけ方(商品名)について分類項目を設定し、また対象物のとらえ方の変化を見るために新たに「とらえ方」という項目を設定した。それぞれの分類項目は以下のとおりである。

#### (1)対象物(商品)

1,000枚の引札にある報告対象について、KJ法により

表-4「名づけ方」の分類項目

| 名前の型   | 説明                                                                     |
|--------|------------------------------------------------------------------------|
| 体言止    | 名前の最後の品詞が名詞で終わっているもの。(例:城見橋、空飛ぶ鯨など)                                    |
| 擬人化    | 対象物を人にたとえたもの/人の行為をあてはめて連想されたもの。(例:親子煙突、待ち人來たらず など)                     |
| 地名入り   | 名前に地名が含まれるもの。(例:関空カイト、北浜町のピラミッド など)                                    |
| 文章型    | 名前が文章の形になっているもの。セリフ型もこの形に含める。(例:火鉢ちやいまんねん スズルでんねん、ワタシちよつとブルーなの など)     |
| 〇〇の□□型 | 一つの単語または文章が「の」でつながれている名前。(例:町中の灯台、風邪引く前の風の神 など)                        |
| そのまま型  | 見たものをそのまま記述したもの/思ったこと、感じたことをそのまま記述したもの。(例:ふたつの顔を持つ「へい」、社殿と切り離された鳥居 など) |
| 思いの記述  | 仕入れをした人が思ったことや感じたことを名前に込めたもの。(例:不気味な階段、雨の日も便利 など)                      |
| 別名の有無  | 名前が二つ(別名)あるもの。(例:長いのはキリン別名まごにもいしう、井戸インマバハス(別名お井戸様) など)                 |

いずれかに分類した(表-3)。この分類はひとつの対象物に対して 2 以上の項目を持つ場合がある(例:デパートの壁の模様…「建物」+「柄/模様/色」+「人工物」など)。

## (2)名づけ方(商品名)

対象物につけられた名前について、「対象物」の分類と同様に KJ 法で分類した(表-4)。この分類についても、ひとつの名前に対して 2 以上の項目を持つ場合がある。

## (3)とらえ方

引札の対象物について、その対象の広がり/とらえ方の変化を分析する項目を設けた(表-5)。この分類は一枚の引札につき一項目の分類である。

「面資源(全体)」は、対象物のとらえ方として最もおおまかな、広がりを持つとらえ方として位置付ける。「全体」と「部分」の違いは、景色のように広がりそのものでとらえるものを「全体」、景色のなかでも部分的に注目しているものを「部分」とした。「線資源」は、道路や階段のように奥行きを持ち線状になっている資源を指す。「点資源」は独立して存在する対象物である。「全体」「部分」の違いは、資源そのものを全体としてとらえたものを「全体」、点資源でも細かい部分に注目したものを「部分」とした。また「点資源(部分)」は対象物のとらえ方として最も細かいとらえ方として位置付けた。

## 2.2 個人ヒアリング

まち歩きを積極的に行う会員 8 人に対し、聞き取り調査を行った。質問項目は以下の通りである。

- ①まち歩き活動を続けていて、何か注目するものができましたか。
- ②普段、どんなときに仕入れに行きますか。
- ③まち歩きを始めてから、日常生活で変化したことはありますか。
- ④活動を重ねていくうちに、ものごとに対して見方が変わったことはありますか。
- ⑤一度引札にしたものを、あとから再び見に行ったり仕入れたこと

表-5「とらえ方」の分類項目

|         |                                                                     |
|---------|---------------------------------------------------------------------|
| 面資源(全体) | 景色、風景をとらえたもの。また、建物の壁や塀など、建物でも面的な広がりをもつものはこの分類に該当する。                 |
| 面資源(部分) | 景色や風景の中でも部分的に注目しているもの。                                              |
| 線資源     | 道路、橋、坂など線状の資源をとらえたもの。近から遠くに向かう線的な広がりを持つものである。                       |
| 点資源(全体) | ポスト、建物など単独で存在する資源をとらえたもの。単独で存在する点的なものである。モニュメントや木(全体)など、たくさんの種類がある。 |
| 点資源(部分) | 単独で存在する資源でもそのものの部分に注目しているもの。点資源(全体)の中でもさらに細かい部分に着目しているもの。           |

分類  
し、20  
項目  
のい

## 3. 分析結果

### 3.1 全体分析結果

#### (1)対象物

「人工物」は近年(後期)減少しており、「景色・雰囲気・様子」は近年にかけて増加している(図-3)。また「公共物」の報告数はほぼ一定である。

#### (2)名づけ方

「名づけ方」についても対象物と同様に引札を三期に分けて、名前の要素の変化を分析した(図-4)。

どの要素もほぼ一定した割合である。最も多い名前の

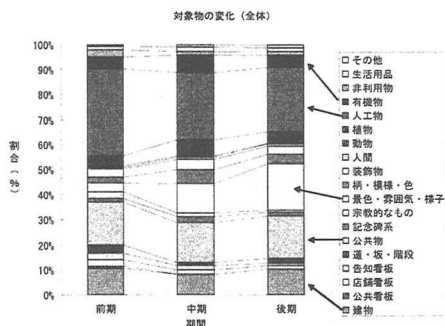


図-3 対象物の変遷(引き札全体)

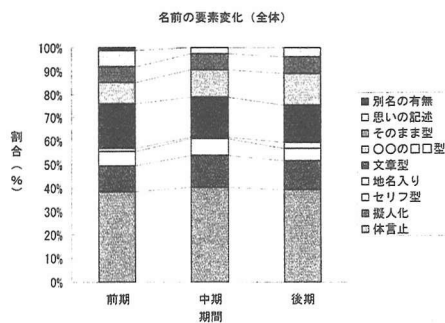


図-4 名付け方の変遷(引き札全体)

要素は「体言止」であり、これは商品名が名詞で終わるものと、完全に名詞形のものを含む。

### (3)とらえ方

対象物の「とらえ方」について、「対象物」「名前の要素」と同様に引札を三期に分けて、とらえ方の変化を分

析した(図-5)。

面資源(全体)は徐々に増加している。また、点資源(部分)は逆に、近年にかけて減少している。

## 3.2 個人分析結果

### (1)代表的5名について

現在まで活発に活動されている5名(Sさん,Tさん,Yさん,Mさん,Cさん)を引札報告数の上位から選び、各個人ごとのデータで比較を行った。50代から70代までの女性である。個人差とまちへの視点についての関係を見るためである。

なお、各5名の活動記録(年ごとの引札報告数)は図-6のようになる。Sさん(引札全体の27%)とTさん(19%)はとくに報告数が多い。各個人ごとに引札をほぼ枚数が等しくなるように三期に分け、それぞれの変遷について比較考察を行った。

### (2)対象物

5人の対象物の変化を、三期に分けて分析した(図-7)。5人すべてにおいて「景色・雰囲気・様子」の引

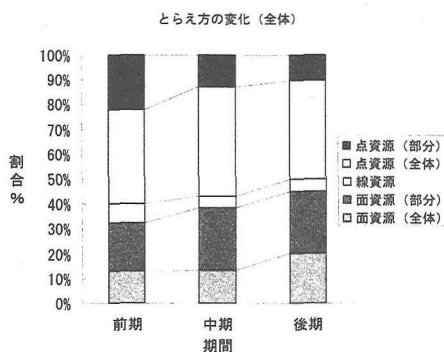


図-5 とらえ方の変遷(引き札全体)

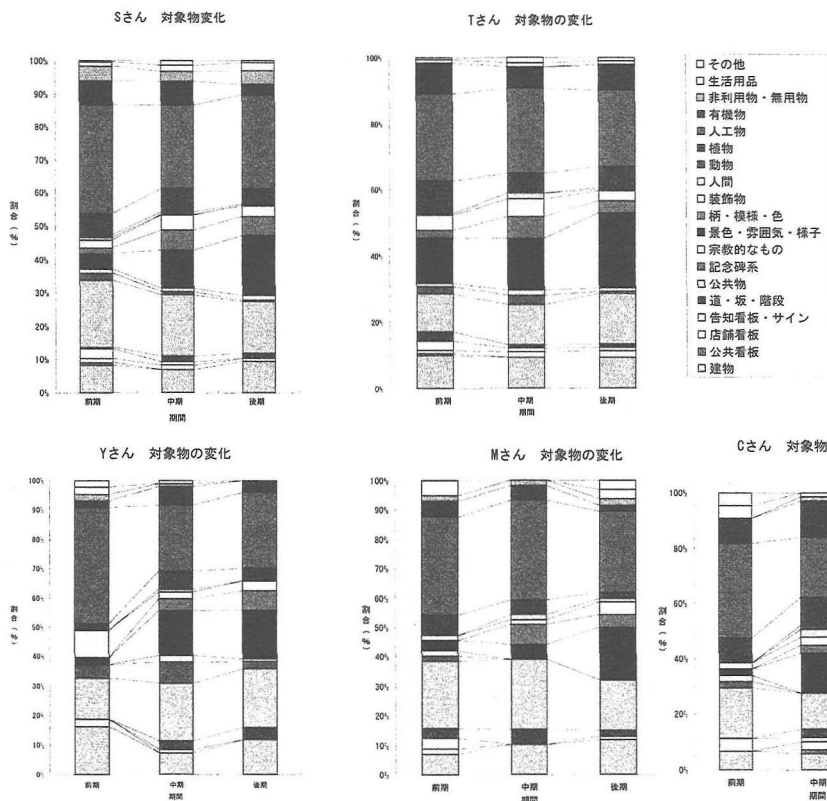


図-7 5名それぞれの対象物の変化(三期区分)

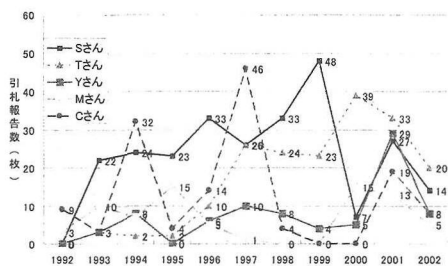


図-6 5名の引札報告状況(年度別)

札が増加している。「人工物」は全体的に数は多いが減少傾向にある。対象物の種別は、個人でそれほどの差異はないと言えよう。これは、「仕入れ」というイベントでいっしょに歩きながら観察していることや、相互の報告が刺激となっているためとも考えられる。聞き取り調査と合わせた結果から、「特に気にしている対象物がある」と答えた会員は5人中2人であった(Sさん[街灯], Yさん[街並み, 碑])。その2人は回答に具体的に示された対象物の数が多い。

### (3) 名づけ方

対象物の分析と同様、5人の名前の要素の変化を三期に分けて分析した(図-8)。5人中4人において「体言

止」の要素が多かった。また「文章型」「セリフ型」は全体的に減少傾向にある。ほぼ同様の傾向を持っていた対象物とは異なり、名づけ方には個人の嗜好(傾向)があらわれていると言えよう。Sさん、Tさん、Mさんは比較的安定しており、それぞれの名づけ方という「型」を持っている。Sさんは半分が「体言止」であり、Tさんは「体言止」と「○○の□□型」「文章型」を好んでいる。Mさんは、「体言止」とともにいろいろな名づけを楽しんでいる。

興味深いのは、変動しているYさんとCさんで、Yさんの場合は、「文章型」から「○○の□□型」へ変わってきていることがわかる。だんだんと「あきんど」としての名づけのおもしろさが身に付いてきたのではないだろうか。Cさんの場合は、「文章型」から「擬人化」へと遷移している。いずれも、「名づけ」のもつおもしろさに慣れて、自分の好きな方法を身につけていったものと考えられる。

### (4) とらえ方

対象物、名前の要素と同様にとらえ方の変化をそれぞれ三期に分けて分析した(図-9)。5人すべてにおいて「面資源(全体)」が増加している。「点資源(部分)」については4人が減少、1人が増加という結果であった。また聞き取り調査からは、「いろいろな形に見える。見てしま

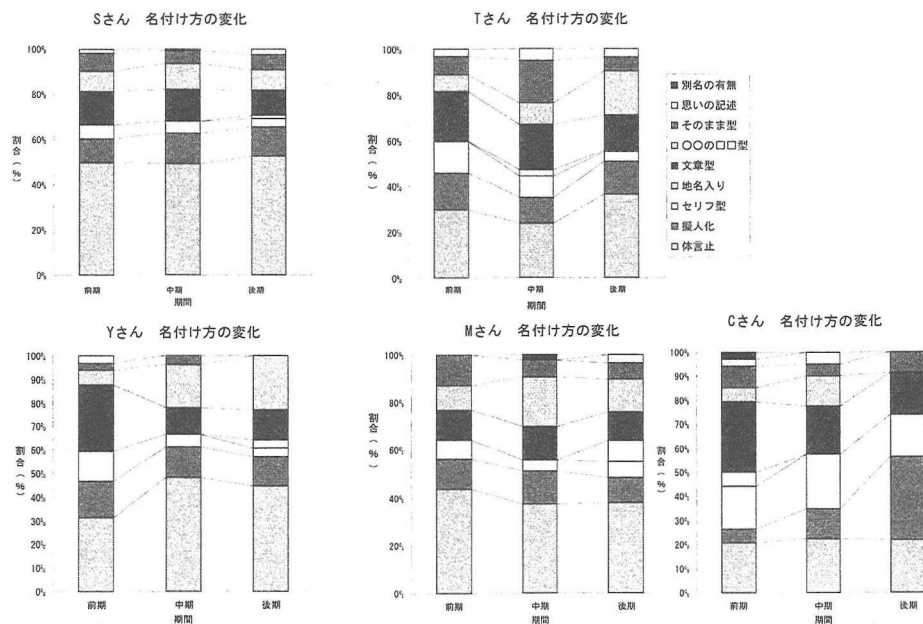


図-8 5名それぞれの名付け方の変化(三期区分)

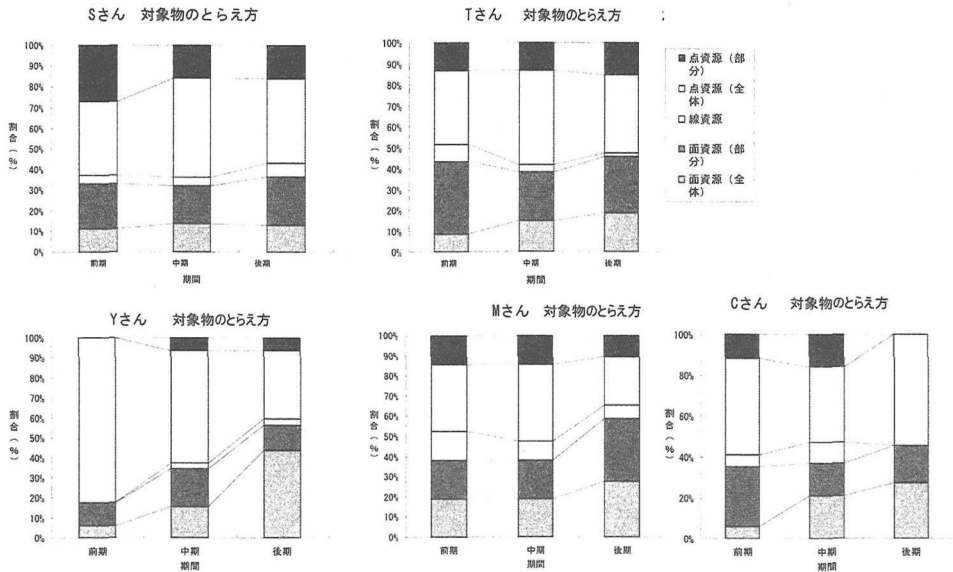


図-9 5名それぞれの対象物のとらえ方の変化(三期区分)

見られ、とらえ方の変化が確認できた。

比較的安定している S さん、T さん、M さんは、それぞれほぼ同様の傾向を持っている。変動している Y さんは、当初は「点資源(全体)」ばかりであった視点が、どんどん「面資源(全体)」へと急激に変わっている。大きな視野を持つようになっている。また C さんは、「面資源(全体)」の増加とともに、「点資源(部分)」「線資源」が減少し、後期ではなくなってしまっている。

## 4. まとめと考察

### 4.1 得られた結果

5 名による個人分析からは、注目する「対象物」についてはほとんど差異がなかった。ところが同じ対象物を見ても、その後の「対象物のとらえ方」には個人差が出てきている。さらに「名づけ方」になると、それぞれ自分の「型(タイプ)」とも呼ぶべき方法が徐々に確定してきており、個人差が大きくなっていることがわかった。

とくに、常に安定した見方や名づけ方をする主体と、見方が変化していく主体とがあることがわかった。サンプル被験者が 5 名と少ないために一般化については慎重に考えたいが、そのことを前提としても以下の 2 パターンが名づけには見られると言えよう。

◆コレクター型：自分の見方を守り、むしろいろいろな空

間を観察し、データとしての発見を増やす志向

◆エディター型：見方や名づけ方のさまざまな楽しさをじっくりと変えながら工夫していく志向

とくに「エディター型」の場合、全体の分析と個人の分析のどちらでも、景観や街並みといった広がりへの視野が増えていることがわかった。仮説では、より細かい点資源へと遷移するものと推測していたが、全く逆の結果となった。このことは、「名づけ」には、その対象物そのものを切り取ってしまうのではなく、背景や配置、周囲の事物などとの関係性を読みとることを求める作用があるものとして考えられる。全体の中にある「個」として見なすようになるのである。「木を見て森を見ず」ではないが、生態学のような“かかわりあい”を直感的にとらえるまなざしが育まれている。

観察から名づけへの流れを考えると、命名することは、「②対象事象を他の事物と区別し、分類の基準を作る」ことであり、「③他人に伝える働きを持つ」ことで、そこには必ずクリエイティブな能動性(創造性)が求められている。俳句や短歌のように、事象を感じ読みとり、感性で表現していく態度である。機能的な関係性から意味的關係性へ拡張する可能性を持っていると言えよう。そこでは、個人の資質が遊びとともに発揮されて、「私ならではの」というとらえ方を育てていくのである。

10 年間という活動のなかで「名づけ」を持続すること

ができたのは、simple な方法と共に、創作意欲をかき立てるおもしろさがあったためと考えられる。

#### 4.2 まとめと展望

本研究では 10 年に渡りまち歩きを続けている『なにわ町方あきんど会』の活動記録である引札を分類し、「名づけ」が環境認識の変化を促すかを分析した。引札の分析からは、対象への注目点にはそれほど個人差は出ないものの、その「とらえ方」と「名づけ方」には大きく 2 タイプ―「コレクター型」と「エディター型」―があると考えられた。それぞれ環境認識の変化としては、「エディター型」は、モノと周囲のかかわりについて深く考える可能性も秘めていると言えよう。しかし「コレクター型」になると、自分の“まなざし”にもとづく見方が固定しがちであり、逆に認識を深める作用を鈍化させる怖れもある。この場合は、あらたな見方の刺激や、「名づけ」の深層を見るような仕掛けがさらに必要とも考えられる。

十分にふれることはできなかったが、『なにわ町方あきんど会』の活動は、個人の仕入れ<sup>14)</sup>、集団による仕入れ、また機関誌『まちなど』の発行、イベントの参加など多岐に渡り、それぞれが個人の環境認識を刺激していることも十分に考えられる。とくに、集団の仕入れでは一つの対象に対し、その場で会員それぞれが思いや発想を巡らし、いくつもの名前がつけられる。この「名づけ行為の共有」は、互いを刺激し、対象に対する見方を広げる大きな要素といえるだろう。

常に新しい発見があるまち歩きを、「名づけ」を通じて楽しみながら継続することは、個人にとって大きな財産となるばかりでなく、人間と環境との意味的関係性のデータとして蓄積されればひとつの生活環境史としても呼ぶべきストックになるとも考えられる。今後このように対象を広く持ち、楽しく継続性のある仕掛けを組み込んだ路上観察がより積極的に行われることを期待したい。

今後の課題としては、クロス集計等の検討<sup>15)</sup>、分類軸

の再検討などが挙げられる。

謝辞：貴重な引札データの拝借や調査へのご協力など、『なにわ町方あきんど会』には大変お世話になりました。記してここに感謝いたします。

#### 註および参考文献

- 1) 「上町台地プロジェクト」：大阪の中心である上町台地のアイデンティティという点に着目し、上町台地がかつて持っていた歴史的、空間的な文脈を掘り起こし、現在の大阪を生きる人々による新たな意味づけを行うことを目的として、大阪大学工学部環境工学科と大阪市保健局の主催で行われたウォーキングイベント（1990.3～1992.3）。詳細は：盛岡通・近藤隆二郎（1990）：まち巡りの体験誘発による環境づくり支援―「九輪の台地」プロジェクト―、環境システム研究 Vol.18, pp38-43 / 近藤隆二郎・盛岡通（1994）：コンセプトと多演性からみた「まち巡りイベント」の参加者意識への影響とその手法化に関する研究、環境システム研究, Vol.22, pp42-49.
- 2) 吉岡哲・盛岡通・近藤隆二郎（1994）：「名づけ」を用いた環境イメージの形成と共有化に関する研究―「上町台地プロジェクト」における実践―、環境システム研究 Vol.22, pp60-67.
- 3) 『引札』：あきんど会のまち歩きの活動記録。あきんど会は町中の環境資源を「商品」に見立て、それぞれに「名前」を付け、その商品に宣伝文句を付けて報告するという活動をしている。引札は主に会の機関誌に掲載され、商品を会員の中で共有する楽しみがある。
- 4) 松田良一（1988）：散歩の詩学サンゴロジー、駸々堂, p149
- 5) 今和次郎（1993）：考現学入門、ちくま文庫, p67
- 6) 吉岡哲（1994）：環境計画における《名づけ》概念の考察と手法化に関する研究、大阪大学大学院環境工学専攻修士論文, p5
- 7) 市村弘正（1987）：「名づけ」の精神史、みすず書房, p4
- 8) 市村弘正（1987）：前掲書, p23
- 9) 市村弘正（1987）：前掲書, p8
- 10) 鳥越皓之編（2001）：講座環境社会学第 3 巻：自然環境と環境文化、有斐閣
- 11) 吉岡哲（1994）：前掲書, p5
- 12) 出口顯（1995）：名前のアルケオロジー、紀伊国屋書店, p38
- 13) 吉岡哲（1994）：前掲書, p6
- 14) 仕入れ：あきんど会においての路上観察を「仕入れ」と呼ぶ。
- 15) クロス集計については、今回の分類軸でも実施したものがあがるが、有意差が見られなかったため取り上げていない。

## Characterization of Giving Name to Objects in Town Watching, prompting change of environmental recognition — A case of "Naniwa Machikata Akindo Kai"—

The purpose of this research was showing the possibility of town watching with contrivance that give meaning to remarked objects (naming). This research dealt in 1,000 records named “Hikifuda” that were kinds of message card with a photo or sketch, naming and comments about the scene. The authors classified these records for 3 sorts, kinds of object, way of angle and way of naming. These sorts were taken for this group and members.

This research showed that the town watching with contrivance that give meaning to remarked objects made the participants divide two types; the collector type and the editor type. The editor type was spreading the point of view for objects. The collector type tend to persist in the way of angle and naming of themselves.